

あとがき

名古屋市北区に一見すると川のような流れがあり、これを黒川という。嘗て工場や家庭からの排水等の流入のためであろうか、汚泥のように見えた。それで黒川というのだと思っていた人が多かったのは無理のない話である。

実は「黒川」とはこの掘削工事の責任者であった愛知県の黒川治愿の功績を讃えて名づけられたものである。

ただし、黒川氏がどのような人か判然としなかった。私は、尾張藩の裏木曾山林について興味を抱いていて、切り出した檜などを木曾川河口に送ることに興味があった。

海部郡立田村（愛西市）の伊藤義夫氏は「立田村史」編纂委員で木曾川輪中の造詣が深いと紹介され、木曾の筏流しを聞くため、平成十五年（二〇〇三）に訪問した際に「黒川を開削した黒川氏が、立田村の排水工事に従事され、顕彰された碑もあると話された。

弥富町の稲塚勝氏も詳しいと紹介された。弥富町にも黒川氏の碑があり、お二人から、それぞれ「碑文」を送って頂いた。お二人の話からは、黒川氏の碑は春日井にもあるとのことであった。

「黒川治愿」を調べると多くの資料が出てきた。

先ず、春日井市の朝宮公園近くに碑が在るとのことで知り写真を写しに行ったが、碑文を読み取れる写真は撮せなかった。春日井市在住の旧友柴田利夫氏に朝

宮の碑文について話を聞くと、黒川氏の子孫を知っているといわれたので、紹介してもらおうことにした。

黒川祐作氏から私家本「治水の愛知縣十年」（昭和二十七年発刊）を、お借りしてコピーの許しを得た。

「治水の愛知縣十年」は、もつとも詳しいものであるが、その外に追加する資料があると考え、「黒川治愿」という名前の出ているものはすべて採集して、それを収録しようと思えば本書執筆の動機になった。

黒川氏の各種工事の施工後、時代の流れに即した工法による工事が追加施工されているが、それについては特に、ここに加えなかった。

浦野利雄

追記

叔父の浦野利雄は黒川治愿をたたえる石碑や功績について長年調査し、出版に向けてパソコンに打ち込んでいました。石碑の多くは漢文で難しくなかなか思うように進まない様子でした。途中体調をくずし中断した期間もあり、原稿の校正途中の令和二年五月に急逝いたしました。

後日、命日が黒川治愿と同じ日と気付き運命を感じました。

その後、石碑調査や校正を数年前から手伝っていた方々と「黒川治愿顕彰会」の名で令和二年度愛銀教育文化財団の助成を頂き、刊行出来ることになり感謝しております。

ありがとうございます。

「黒川治愿顕彰会」代表 山崎久美子

黒川治愿は「治水の研修」を何時、何処で受けたのか、いろいろ調査しても資料を見つけないことができなかった。唯、同じ佐波村に天保十三年（一八四二）生まれの人物「山田省三郎」の存在が気になった。経歴は十三歳で家督をつぎ、名主庄屋役、加納藩の堤防取締役を任じられ、岐阜の治水に貢献した人である。

黒川治愿は弘化四年（一八四七）生まれで五歳年下であり、同じく木蘇大夢の門下生となっている。父の川瀬文博は庄屋をしており、同じ村役の同輩としての関係もあり、また治愿も色々な面において薫陶をうけたと推察したいが、謎は残されたままである。

また、本会発起人である故浦野利雄氏が、本誌編纂の契機となった名古屋市北区の黒川水路の掘削工事に黒川治愿がどのように関わったかの詳細の記録が見つからなかったのも多に心残りである。現在の地下鉄「黒川」の駅名も、元を正せば、彼の功績に由来することを、後世に伝えていきたい。

文責・神野卓三

黒川治愿石碑集

碑番	名称	場所	資料	頁
1	明治用水開削碑	安城市浜屋町 西新切	明治用水 資料編	18
2	三郡輪中治水碑	岡崎市久後崎町安具下	新編岡崎市史 近代 p 157	26
3	北濱悪水路開削碑	西尾市桜木町 7 丁目	三河金石文字集 p56	36
4	小草池新築碑	西尾市家武町小草 3	三河金石文字集 p31	38
5	占部用水碑	岡崎市正名町中之切	治水の愛知縣十年 p 35	40
6	菱池碑	幸田町大字菱池字菱池	幸田町史 資料編 2 近代 p590	42
7	高橋用水碑	岡崎市高橋町郷北	碑は語る 岡崎平野の治水と農業 p 47	44
8	福岡町治水碑	岡崎市福岡町荒追	治水の愛知縣十年 p 41	46
9	矢作川修理西提碑銘	岡崎市北野町字東山	矢作町誌 p 443	48
10・1	新木津川用水改修碑	春日井市高山町 2 丁目	木津用水史 p 658	60
10・2	旧碑→供出	同一場所	新篠岡百話 第二集 p90	54
11	故堀尾茂助君碑	春日井市関田町 3 丁目	春日井市史 資料編 p528	62
12	入鹿再築碑	犬山市喜六屋敷	入鹿池史（入鹿用水誌） p 1219	65
13	味鏡原新田改修記念碑	春日井市二子町 2 丁目	木津用水史 p 687	69
14	上條新田開拓碑	春日井市鳥居松町 3 丁目	木津用水史 p 689	71
15・1	黒川治愿遣沢之碑	春日井市御幸町 3 丁目	木津用水史 p 690	73
15・2	報徳碑	同一場所	春日井の近代史話 p31	73
16	郷瀬川改修碑	犬山市塔野地北 1 丁目	郷瀬川悪水普通水利組合沿革誌 p 81	75
17	修理洗堰碑	名古屋市西区山田町大字大野木	庄内川流域史 p 291	79
18	増穿鶺戸川碑	愛西市新右衛門新田町郷前	新編立田村史 p 211	84
19	黒川治愿功德碑	弥富市五明 3 - 3 5 5	弥富町誌 資料編 1 p 185	90
20	故黒川治愿君之碑	名古屋市千種区平和公園	愛知縣金石文集 上 p837	97
21	黒川治愿墓碑	岐阜市柳津町上佐波	黒川治愿・川瀬元九郎の生涯と業績	107
番外-1	堀川堀留跡の碑	名古屋市中区三の丸 1		105
番外-2	"黒川は"	名古屋市中区田幡 2		106

付記 黒川治愿関係碑集（県内の石碑所在地）

これらは 黒川耕作「治水の愛知縣十年」私家本、山本一彦「明治初期の愛知県土木事情と黒川治愿」土木史研究第十一号、川瀬治通「黒川治愿・川瀬元九郎の生涯と業績」私家本、等をもとにした。石碑文を主に編集して、紙数の都合で全石碑の訳文は割愛した。なお「黒川」の二碑の設置時期が昭和以降のため番外にした。昭和 4 4 年（1 9 6 9）黒川は 一級河川「堀川」に指定されたが、通称として黒川樋門と朝日橋の間が「黒川」と呼ばれている。多くの方々にご指導を頂き完成したことを最後に「感謝」の言葉として記します。

石碑は神野卓三・石黒光が撮影した。

「偉人黒川治愿傳」
黒川治愿顕彰会 編纂委員会

著者 浦野利雄 (前会長)

山崎久美子 (会長)

伊東重光 (監修)

神野卓三 (編集)

石黒光 (同)

山崎裕一 (同)

黒川顕彰会連絡先 〒462-1004

名古屋市北区水草町2-33

発行 二〇二一年五月

印刷 安藤印刷株式会社

* 令和二年度愛銀教育文化財団の助成を受けた。